

ひろば 大代

平成 5、8、4

大代公民館

終戦記念日

「新たな段階に」 大代公民館

八月十五日は終戦記念日です。日本がアジア諸国への戦争加害責任は、まだ「克服」されたとはいえません。

自衛隊の海外派遣という新たな問題も浮上してきました。

戦後四十八年目のこの時代、毎年めぐってくるこの日を、今どうとらえ直したらいのでしょうか。戦争を体験してこられた渡淳氏の「反戦平和」を共に再考し新たな段階を思考したいものです。

被爆体験は平和の原点

山田 渡 淳



さきの大戦以後既に半世紀に及ぶ歳月が流れた。

当時私は本土決戦にそなえて、広島から十二料の対岸江田島幸ノ浦で海上挺進戦隊、即ち小さい舟に爆雷を搭載

し、敵の船に擬もろとも体当りする特攻隊員として訓練中であつた。

眼前の呉市がB29の襲来を受け全市一瞬にして火の波にのまれ、江田島周辺に停泊中の軍船や我々の舟艇を目標

に連日敵の艦載機グラマン二百機ばかりが、波状攻撃をかけ緊迫していた。

昭和二十年八月六日八時十五分、朝食後兵舎内で訓練の準備をしていた。

突然、兵舎の窓やすき間から一瞬沢山のフラッシュをたいたような光が「ピカッ」と走つた。と、「ドッカーン

」大地もひっくり返るかと思うような大音響と、木造トタンぶきの兵舎がふ

っ飛ぶかと思うような大爆風が「グオッ」とやってくる。大地震と台風が

一度に來た状態で兵隊（少年志願兵）達は大騒動となつた。

広島の上空は黒い煙がモクモクと上り、真っ赤な炎が見え隠れしていた。

やがて白煙の中にピンク色のまざつた雲となつて空高く大きく広がりのこ

雲（原子雲）となつていた。

広島に原爆が投下され、鉄をも溶かす三〇万、数千度の熱線と爆風による巨大な力で街は破壊され、焼き尽くさ

れ、焦土と化し、屍の街となつた。被害は倒壊焼失家屋七万戸、死者二十数万人ともいわれ、生き延びた人の多くは放射線障害に苦しむこととなる。

私達は宇品から救護作業の為、広島に入った。途中の道路の両側には、男女の識別のつかない全身に火傷し、皮膚のたれさがつた負傷者の群が横たわり、「兵隊さん、水。」という呻き声は今も尚、八月六日が来ると聞こえてくる。

道は電線がたれ、電車が焼けこげ、二体、三体と焼死体が転がっている。

早速、負傷者を救護所に運び、屍の川に浮かぶ三倍にもふくれあがつた死体を引き揚げ、積み上げた死体に火をつけ哀悼の意を捧げた。その数三百体はあつたと思う。

焼土と死臭の生き地獄の中、一週間死の灰の上に野宿し、救護活動に、死体の処置に、そして道路の障害物除去につとめた。

原爆並びに終戦四十八周年記念を迎え、平和の尊さをかみしめ、戦争を憎み、世界人類を滅亡に導くこのような悲しい凶器が再び、人類の上に使用さ

れることのないよう平和への祈りを捧げたい。

|| 追憶 || 昭和六十二年八月号記事
お盆について思うこと

下谷 尾崎三枝子

「ふる里は遠きにありて思うもの」
核家族になった今日、この心境の味わいを年と共に深く感ずる人が多いと思われます。

ふる里は先祖の眠る墳墓の地であり幼い時遊んだ思い出の山や川、親兄弟血縁友達のふれあいがあるからであります。お盆が近くなると日本列島の大移動が始まり、帰省ラッシュが大変になります。それにも凝りず心はふる里へとはずんで居られると思います。

言う迄もなくお盆の核心は墓参りで先祖の前に感謝し、その培って来られた伝統を思い、これを継承し、更に後世へ伝えて行かねばならない使命を持っている自分を自覚する機会でもあると思ひます。

日頃先祖とか仏壇に無縁な子供も、仏壇の前に合掌し、先祖の話を書くこ

とに依って、理屈でなしに生きた人間教育の場ともなると思ひます。

盆踊りは先祖の魂を迎えその霊を慰める為に行われるもので、新盆には特に親類縁者が集まって踊ったものだと聞いていますが、高齢化と共に低調になり考えさせられます。

お盆を契機に先祖を敬い、帰郷の人との心の交流、自然のふれ合いを大切にし、祖先の残された文化を受け継ぎ伝えて行かねばならない事を痛感するものです。

相撲大会後記

大代体協会長 永井利樹



今年で三回目となった高山地区親善相撲大会も皆様の協力により、無事終りました。

この大会を企画して毎回準備する時に出る話ですが、「今回でやめよう」と。その位頭を悩ますのが他地区の参加者数の事、又当日の天気です。

大代小学校は学校の計らいで全員参加してもらえますが、他の地区の学校では取りまとめがしてもらえず、地区

の体協の方をお願いするしかありません。何とか少ない人数ですが、参加していただき天気も良く、大成功でした。毎年体協の会員で話す事ですが、常設の土俵があればもっとすばらしい試合になるのですが、何せグラウンドの中に俄か作りの土俵では、子供達に満足のいく相撲を取ってもらえず、残念です。私も少し相撲をやっているのですが、土俵を作りながらいつも思うのですが、勝負を土俵のせいにしてほしくないのです。

今年は岡山県から相撲パンツを借りましたが、やはりパンツではなく、まわし姿が男の子には似合います。

裸足になる事がなくなった今日、足の指で土を握りしめる事が「土ふまず」を発達させます。又押したり引いたり、バランスの良い筋力をつけ、瞬発力、持久力の双方の発達となります。今後相撲等の大会を通じて、子供達に礼儀と友情の輪を広げたいと思ひます。そしてこの大会を先々全国わんぱく相撲の予選会にしたいと思ひます。大会に協力していただき有難うございました。

唱歌の旅

「ふじ山」

一、あたまを雲の上にだし
四方の山を見おろして

雷さまを 下に聞く

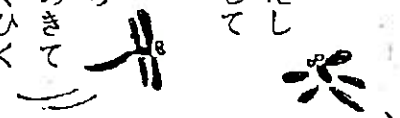
富士は日本一の山

二、青空高く そびえ立ち

からだの雪の きものきて

かすみのすそを 遠くひく

富士は日本一の山



皆さん今日は

「こちら本郷自治会です」

本郷 松井 幸

大江高山の南麓に展げる本郷自治会
は戸数二十六戸、人口八十人で三つの
班から成り、殆どが米作農家で、家族
の中には近隣の企業へ勤めている人も
多く、兼業農家が主体です。又数戸の
家では畜産も営まれています。

一昨年竣工された自治会館に於て、
毎月二十六日が定例日とされ、集金を
兼ねた会議が開かれます。

大江高山の南麓には昔から入会山と
称して約7haの共有地があり、上、中

の地域に居住する人々には自由に立入
が許され、薪炭材の伐採が行われてい
ましたが高度経済の発展により、今で
は殆ど利用がありません。

昭和三十六年頃からこの共有林を二
十戸の共同作業に依って栗園（樹園地
）に開墾され約六千三百本の銀寄、利
平などが植栽されていましたが過疎や
高齢化により人手不足となり、加えて
相次ぐ猪害により収穫の大半が荒らさ
れ、十年中途で今ではすっかり荒廃し
ています。一部には杉、松などの造林
地もあり、自治会内の公共材に利用さ
れていました。

展望はすばらしく傾斜あり、平坦な
広さあり、ウインタースポーツ（スキ
ー場）などの建設が噂されてきました
がこれに通じる道路の整備が伴わない
為放置されています。
今後の活用を如何にするか、問題を
投げているものと思われれます。

クイズ（頭の体操）

1、小包が届いたのでその箱をあけて
みると中はカラッポだった。これは
どこから送ってきたのか？

★（7月号の答え）

1は7匹（ニワトリは2羽の鳥だか
ら）2はサラリーマン（サワリマン
だから）

***** 8月行事予定 *****

◆5日（木）フォークダンス教室

◆6日（金）子宮がん検診

◆9日（月）寿会草刈奉仕

◆11日（木）星のかんさつ 夜八時
講師 青戸先生（大田小教頭）

◆15日（日）第八回 都市交流会

朝六時からイベントがありますので皆
様方のご参加ご協力をお願いします。

◆19日（木）ダイヤゾーンボール教室

◆26日（木）ダイヤゾーンボール教室

★—★おしらせ★—★

◎天領さん共催行事として、大田市青
年協議会はこの度「大田市いきいき夢
大賞」作文を募集しました。田辺孝館
長はその作文に応募し四百三名の出品
の中から見事「いきいき夢大賞」を受
賞しました。おめでとうございます。

◎大代公民館より

埼玉県春日部市 松野 広 様から
公民館へ荷物運搬用の台車を御寄贈
頂きました。厚く御礼申し上げます。